



Nicole BMW *Shuten-dohji*

人類は、常に新しい挑戦を夢見ます。

以来数百年、現状に満足しなかった人達がおります。

我々は、例えばコロンブスのような冒険家を思い出します。

1492年、彼は危険な航海に出ました。当時多くの人達は地球が平らで、遠くへ航海すると地球から落ちると信じていた時代でした。彼は、1/2をスペイン女王、そして1/2をイタリアの投資家によって支援されました。彼は、国民的英雄として1493年3月にヨーロッパに戻りました。

1953年の5月に、ヒラリーとテンジンは、多くの人達、例えばマロリーとアーバインらが8,845メートルの登頂に試み、

死亡した直後にエベレスト登頂を成し遂げました。

或いは、22年後には、田部井淳子がエベレストを征服した世界で最初の女性となりました。

勿論、ヒラリーとテンジンの両名は、イギリス女王から名誉のメダルが与えられました。

1969年の7月に、アメリカのアポロ11号は発射され、月に向かって飛び立ちました。

1969年7月20日、ニール・アームストロング船長が、人類史上初の人間として月面に降り、全世界は畏敬の目で彼を見守りました。

今日、我々は、人類を火星に送ることを考えています。

この計画は、2030年、我々が生きている時代に行われる事が予想されます。

この火星への旅は、クルー(乗組員)を6カ月間ロケットの中に閉じ込めることになるでしょう。

多くの勇敢な男と女は、何が可能か、という現在の境界に挑戦しています。

彼らの多くは、その試みに命を賭けています。

チャレンジ(挑戦)精神は、我々の全てにあります。

我々の全ては、毎日、小さな挑戦に直面しています。

子供を育てる親

厳しい経営環境での生き残り

厳しい上司の下で、生き留まること

事実、生きる事自体、最後の最後まで挑戦の連続です。

人類は、物凄い挑戦ができます。

我々の全ては、人生で偉大さを達成する能力があります。

然し、正直なところ、若いときでさえ、ほんの僅かしかしません。

我々のほんの僅かの人しか、大きなリスクを取る事、或いは、その意思はありません。

何かを立証する為に命を賭ける人は、ほんの少数でしかいません

そして、シルバーエイジ(老年期)に達したときには、そうする事を考える人は殆どいません。

たまに、誰かが、我々に何が出来るかを、教えてくれます。

たまに、誰かが、我々の夢を理解し、現実の世界に導いてくれます。

それぞれの我々の生涯において、伝説的な人物に会える機会は非常に限られています。

通常、我々にとって、唯一の方法は、本で彼らに関して読むか、又は映画で観ることです。

私は、斉藤さんについての記事を、1996年の2月の新聞で読みました。

それ以来、時々、新聞で記事を読むことによって、彼の成功の軌跡を追いました。

私は、日本人の勇気に心を奪われました！

事実、何年間も、私はセールスマンに対するスピーチで、斉藤さんに関する話をしました。

昨年9月、本当に偶然ですが、お互いに友人である豊田さんと25年ぶりに会いました。

彼は、私の友人である「堅田さん」に会わせました。彼とは33年振りでした。

ヨットマンである「堅田さん」は、私に有名な日本人の船乗りである斉藤さんと会う機会を与えてくれました。





Nicole BMW *Shuten-dohji*

個人的に、私は海が好きです。
ヨットマンではありませんが。

それ故に、私は、真のヨットマンだけが世界単独航海をすることの意味を理解できるものと思っています。
貴方は、どうしたら常に変化している環境の中で、一日たった平均4.5時間の睡眠で、乗り切ることができるでしょうか？私は、1週間も生きてはいられないでしょう。
貴方は、半年の間、誰も話す相手がなく、全くの孤独に耐えることができるでしょうか？
貴方は、数階建てのビルと同じ高さの波に直面したとき、舟の上で、一人で何を感じますか？
そして、それが同時に、寒く、水に濡れ、全くの漆黒の闇の中で、貴方は何を感じますか？

56歳の時、斉藤さんは世界単独航海をはじめ、そのクラスで3位に入っています。
普通は、この年で考える事は、差し迫ってくる引退、そして、静かで安全な毎日に関するものです。
それ以来、斉藤さんは、もう6回も同じ挑戦をしています。
71歳の時、単独無寄港（ノンストップ）航海をしました。
彼は、最も多くのヨット周航世界記録を保持しています。
今年、74歳で、斉藤さんは8回目の挑戦を始めます。
今回の挑戦は、彼が今までにした中で、何よりも大きなものになるでしょう。
彼は、東から西へ、風向とは逆に航海します。
環境問題のある中で、自然破壊することなく、風だけを利用します。

今日の日本では、我々が聞く全てのものは、豊かになる事の話ばかりです。
時には、人に迷惑をかけながら、豊かになろうとしています。
これは、日本の本当の精神ではありません。

今日の日本で、若い母親が子供に対して、勇敢で強い人間の話をするとき、誰のことを言うでしょうか？
我々の中で、世界に対して、日本の手本として誇れる人をあげるとすれば、誰のことを言うでしょうか？
日本で誰が、年取った人に希望の精神をもたらす事ができますか？
社会として、今日、享受している日本を作上げたことに対して、誰に感謝できますか？
勲章を頂くにあたって、どのような資格が必要でしょうか？

私たちニコル・グループは、2007年に30周年を迎えました。この30年の間、多くの素晴らしいお客様、パートナーに支えられてきました。
我々の成功は、彼らの協力によるものです。
我々は、どのように恩返しができるかを真剣に考えています。

斉藤さんは、今日我々の社会をとりまく闇の中の灯台です。

私は、斉藤さんの高貴な努力を支えることが、斉藤さんに対する感謝を示す事だと感じました。

2008年1月10日

ニコル・グループ
代表 C.H. ニコ・ローレケ



NICOLE GROUP OF COMPANIES

www.nicole.jp